

琴線 ひらがな

森野 水琴

令和四年

1

よもふけて みみそばだてる しずけさに
ゆきのしろさも まどにうつらむ

2

ひとしれず ながめしままと きがつきて
こころのまどに ささやきかけむ

3

いこくへと まどをひらきて ききながら
はるかとおくに おもいよせなむ

4

あめのおと まどごしにきく ゆうぐれに
あすははれよと ひとりいのらむ

5

まどをうつ あめのおとにも おどろきて
まだあけそめぬ そらをながめむ

6

てんもなき ひとすじのあめ まいおりて
こころのいずみ ことをかなでむ

7

このあめは てんとこころを むすぶみず
かわきうるおし よみがえらせむ

8

しろいかみ しろいもじ むげんのせかい したためむ

9

ことのはが てんからおりて くるように
すらすらと ただ すらすらと したためむ

10

てんからおりた ことのはを したためて
こえにだしては てんにとどけむ

11

びとかいた つもりがなぜか いまひとつ
せんがたりずに なおもはげまむ

12

うつくしきもの うつくしいという あなたこそ うつくしい
それがわかる わたしもまた うつくしい
それだからこそ わたしたちは うつくしい
このわひろげて みなうつくしき よになることを
ひたすらねがう

13

こころこめ したためてこそ うつくしい
もじによりそい ふけていくよる

14

うつくしき もじでかかれた ちしきゆえ
まねてかいては かわきうるおす

15

うつくしく したためられた ことのはを
かきうつしては しみさせむ

16

いてつくそらに ひがさして あたたかくなり はずむことのは

17

またひとつ いこくのひとの ことのはを
まなびはじめて ともにはげまむ

18

そよぐかぜ このはをかなで ゆれながら
ささやくように みみをうるおす

19

なもしれず ながれるかわの せせらぎに
みみをかたむけ しばし たたずむ

20

すみわたる よぞらにひかる つきみれば
わがこころにも しみることは

21

さても この やよいのみそらに
なかむつまじき ふたりの きようは おひろめ
ねがわくは とこしえに たがいのみりよくを
こころいくまで ひきだしたまえ

22

なつまでの たのしみとせよ いよのあじ
あたたかきしる しるひとぞしる

23

まちこがれ なつまでまでぬ いよのあじ
みたしたあとの ちやとたのしまむ

24

なつかしき うつわにむした きようのしな
われをわすれて あじわうほどに

25

あつきひに よみがえるのは いよのあじ
なつかしみつつ ころなごまむ

26

まどにさす ひのまばゆさに ときめいて
あらたなあさを きようもむかえむ

27

てんにいのる ことのはがまい はごろもを
まとうてんによも ほほえみいかむ

28

したためた ふみのゆらぎに なごみつ
そこはかとなく よるもふけなむ

29

うみへだて いこくのしまを ながめれば
まぢかにせまる おそれにもにて

30

かぜにまう なみのはなこそ さきほこれ
つかのまにとは おもわぬほどに

31

やわらかき ふでのほこびに よいながら
したためていく ときのまにまに

32

まどべにと よりそうひとのおもかげに
なつかしみては あきもくれなむ

33

こえださず ことのはのみを ひびかせて
きこえるがまま ただしたためむ

3
4

あきのよを しおりかたてに ほほえみて
ふみよまむかな はてるともなく

3
5

ひびくおと したためたほん よみながら
しおりにぎりて ゆらぐころを

令和五年

3
6

めぐりあい ひさかたぶりの よろこびに
たえなるしらべ ともときくらむ

3
7

おりてきた ひとのことは ききながら
わすれたひびき おもいださなむ

3
8

おんまえで ともとまいたり あてやかに
てんもよろこび ひとすじのあめ

3
9

てのひらに ひとひらのゆき まいおりて
さもひそやかに ささやきかけむ

4
0

ひとふゆを なごりおしみて ふるゆきも
すだちをめでて はなとなるらむ